

# ITU 無線通信総会について

# ITU 無線通信総会(RA-12)について

## 無線通信総会 (RA: Radiocommunication Assembly)

- 開催期間: 2012年1月16日(月)～20日(金)の5日間
- 開催場所: ジュネーブ(スイス)
- ITUで無線通信分野の標準化を行う無線通信部門 (ITU-R) の総会であり、3～4年に1回開催。
- 参加資格は電気通信主管庁 (192加盟国) 及び無線通信部門セクターメンバー (218メンバー)
- 前回総会 (RA-07) は2007年10月15日(月)～19日(金)の5日間、ジュネーブ(スイス)にて開催され、全体で約500名、日本から30名が参加

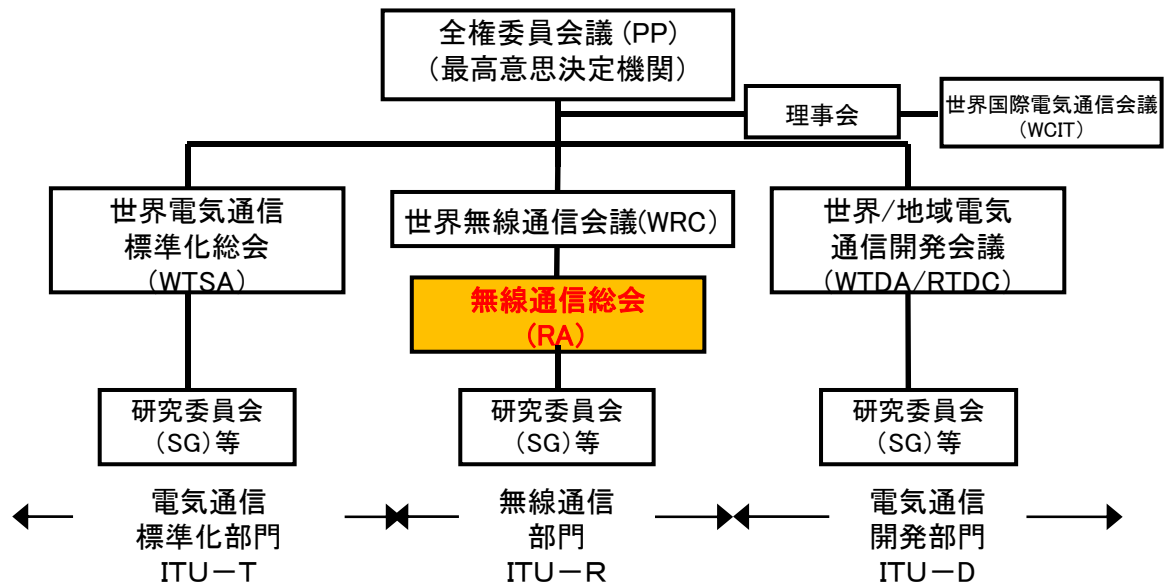
## RA-12の主な任務

- 勧告案の承認
- 研究委員会 (SG) 構成の審議
- SG議長・副議長の任命
- 作業方法の見直し
- 研究課題の承認 等

※RAのagendaはITU条約第8条等に基づき定められており、事前調整等は特に行われず、第1回代表団長会合で提示される。

## RA-12に向けた我が国の主な対応

- SG議長・副議長ポストの確保を目指す
- 勧告案等については各SG担当委員会等で議論の上、RA対策部会等で検討する



# 無線通信総会（RA）の議事内容

※前回、前々回の議事内容に基づく

## 第1回 代表団長会合(会合1日目 本会合直前)

- ・全体会合議長等の選出
- ・委員会議長等の選出

## 1日目 本会合

- ・開会式
- ・議長等選出、委員会の設置
- ・会合スケジュールの提示

## 2日目～5日目 本会合

- ・各研究委員会(Study Group)報告  
勧告案の承認
- ・委員会報告  
委員会報告の承認
- ・決議承認(改訂等)

## 第2回 代表団長会合(3日目の夜に開催)

- ・次期研究委員会(SG)議長等候補者の絞り込み

## 設置される委員会

COM1 会議運営	COM2 予算管理	COM3 編集	COM4 SG構成 作業計画	COM5 作業方法
RAにおける各委員会等の時間を検討	RAに係る会計審査、支出報告等を担当	RA決議案の調整	研究委員会SGの構成、作業計画を審議	SG等における作業方法の採択を担当

- ・各委員会会合の開催
- ・研究委員会(Study Group)臨時会合の開催

**改訂決議案、勧告案の調整・採択を行う**

## 最終日(5日目午後) 本会合(閉会)

- ・閉会式

第6回本会合までに  
・改正決議、勧告案の承認  
・SG議長等の承認  
は終了している。

次回開催は今後開催のITU理事会で決定  
(次回は2015年開催と推定)

# RA-12の議題

## RA-07の主な議題

- SG(研究委員会)再編
  - ✓ 最新の技術動向を考慮し、前会期(2003~2007)の7SG+RAGから6SG+RAGに再編。このうち、移動業務と固定業務を新SG5として統合し、地上業務を一体的に扱う巨大SGが出現。
  - ✓ 我が国から立候補した、SG議長1名、副議長2名の候補者がそれぞれ選出された(SG議長は、新SG5の議長)。
- PLT(Power Line Telecommunication: 電力線通信)勧告案
  - ✓ 漏えいする電磁波からの短波放送の保護の条件に関する勧告案を欧州が中心となり提出
  - ✓ 本勧告案はPLTからの保護について、非現実的な基準(パソコンからのノイズより厳しい雑音許容レベルを要求)を課すもののため、我が国を初め米・豪・伯等から審議継続を求める主張が反映され、SG6等で継続検討されることとなった。  
→2011年1月、都市雑音等、現実的な環境下における許容基準とし、各国の方式(日・米・独・韓・伯)をAnnexIに併存させた30MHz以下のPLTIに係る勧告(SM.1879)を承認。現在、470MHzまで周波数拡大に向けた改正勧告案の承認手続に着手予定。(年内勧告化を目指す)
- IMT-Advanced(第4世代携帯無線システム)に係る新決議
  - ✓ 国際標準(勧告)の策定に向け、加盟国等への提案募集、提案技術の評価、コンセンサス形成等のプロセスの原則を定める新決議が承認。新SG5において、当該システムの標準化作業が本格化。

## RA-12の主な議題

- IMT-Advanced(第4世代携帯無線システム)技術仕様勧告案
  - ✓ RA-07決議の成果として、無線インターフェースの詳細仕様を定めた勧告のRA-12承認を目指す。
  - ✓ 勧告草案はSG5 WP5Dで暫定承認。勧告化によりサービス開始に向けた動きが加速するものと思われる。
  - ✓ 勧告案ではLTEベースとWi-MAXベースの2方式を提示。
- コグニティブ無線(Cognitive radio: 最適な周波数・通信方式を自動選択して通信する技術)新決議案
  - ✓ コグニティブ無線の研究開発の積極的検討に係る新決議案を提案。RA-12での決議承認を目指す。
  - ✓ 日本含め欧州、ロシアはコグニティブ無線技術の利用に関するガイドライン等の検討が必要と主張。一方、北米、アラブ諸国は研究開発推進に係る決議は不要との考え。
- 短距離無線機器の影響
  - ✓ 電子タグ(RFID)、短距離無線(SRD: Short Range Device JRのSuica等)の電波による他の無線通信業務への影響について、アラブ諸国等から規制化の意見がある。
  - ✓ 日本含め欧米諸国は問題が発生していないため規制不要の考えだが、RA-12への決議案化等、動きを注視する。

# RA12に向けた準備（予定）

